

ISFJ 日本政策学生会議 2010年度 活動報告書

2010.4. ~ 2011.3.

活動報告書 目次

| | |
|----------------|----|
| 代表挨拶・団体概要 | 2 |
| 活動理念 | 3 |
| 活動日程 | 4 |
| イベント活動報告 | |
| ゼミ説明会(東日本) | 5 |
| ゼミ説明会(西日本) | 6 |
| 勉強会(東日本) | 7 |
| 勉強会(西日本) | 9 |
| 中間カンファレンス(東日本) | 11 |
| 中間カンファレンス(西日本) | 13 |
| 中間発表会(東日本) | 15 |
| 中間発表会(西日本) | 18 |
| 政策フォーラム | 20 |
| 政策提言会 | 25 |
| 財務報告 | 27 |
| 協賛・後援 | 28 |
| 参加大学・研究会 | 29 |
| 報告書情報 | 30 |

代表挨拶



団体概要

団体名

ISFJ日本政策学生会議

結 成

1994年

スタッフ

10大学 12研究会 30人(2011年3月現在)

活動理念

学生の政策提言による望ましい社会の実現

ISFJ日本政策学生会議 第15期代表

明治大学商学部 千田亮吉研究会

堀口 瑞生

私共「ISFJ日本政策学生会議」は、『学生の政策提言による望ましい社会の実現』を理念に活動をしている学生シンクタンクです。学生の政策提言論文の作成支援と、発表の場の提供を主務とし、日夜活動を致しております。

本来、政策は政治家・官僚といった政策担当者からトップダウン形式で提言されるものです。しかし、自由闊達な視座を持ち、実際の政策の受け手である学生が政策提言を行うことで、より望ましい社会の実現が成されるのでは、と私共は考えております。今年度も質の高い政策提言を発信すべく、中間カンファレンスや勉強会を開催し、半年間にわたり参加者の論文作成支援を行ってまいりました。また、昨年度に引き続き「政策提言会」を開催し、優秀論文を国会議員・政策秘書の方に発表を行ったことで、学生の提言をより広く伝える事が出来たと感じています。

ISFJの活動もお陰様を持ちまして、15年という節目を迎えることが出来ました。私共の考えに共感する学生は年々増加し、今年度も600名以上を超える学生が参加し、120本もの論文が提出されました。しかし、私共の活動は規模を拡大することではなく、質の高い政策論文を広く世に発信することです。既に、来年度の新たな取り組みに向けて団体は活動を致しております。来年度も活動理念を胸に、これまで以上の政策提言を目指し、活動に邁進していきます。

末筆ではありますが、参加学生の皆様、各種イベントや論文審査において多大なご助力を頂きました教授の皆様、企業・財団の方々、活動の支援を頂いております協賛企業・後援団体の皆様に、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

今後ともISFJをよろしくお願い申し上げます。

活動理念

「学生の政策提言による望ましい社会の実現」を目指して

ISFJ日本政策学生会議は「学生の政策提言による望ましい社会の実現」を理念とし、学生による時代感覚を踏まえた政策立案の支援と政策の実現に向けた発表の場の提供を行っております。

元来、政策とは政治家や官僚といった政策担当者によるトップダウンの形で立案・提言されるものとされており、学生による政策提言を行う意味を疑問視する人もいるかもしれません。しかし、本来的には政策は社会全体のためにあるべきものであり、政策担当者による一元的な決定は決して望ましいものではないと私たちは考えます。そしてその意味において、学生による政策提言は非常に大きな意味を持っています。

これまで政策担当者のみが担ってきた政策市場に対して、学生が政策を提言していくことの最大の意味は、柵のない自由闊達な視座からの政策提言を行うことが出来るという点にあると私たちは考えています。政策担当者による政策立案の最大の欠点は、所属する省庁や部門によって政策の可能性が限定されてしまうという点にあります。たとえ社会にとって本当に必要な政策であったとしても、それが所属する組織の利益と合致しなければ採用されることはありません。しかし、私たち学生は所属する大学やゼミなどによって自分自身の行動が制約されることはなく、本当の意味で社会にとって必要な政策提言を行うことが可能となります。柵のない学生という立場から社会全体のニーズを反映した政策を提言することは、政策の受け手からのボトムアップの政策提言と言い換えることができ、真に望ましい政策提言のあり方であると言えるでしょう。

そして、このような学生による政策提言を通じて望ましい社会を実現するために私たちは2つの行動目標を掲げています。

ひとつは政策市場に通用する政策を考案するための支援です。学生が政策提言を行うにあたり、これまでの机上の学問を通じて体得した学生の知識や考えを実際の社会問題を解決する政策へと昇華させるための支援が必要不可欠であることは言うまでもありません。

いまひとつは考案された政策を実現するための発表の場の提供です。政策提言の最終目標はその政策の実現を通じた社会の変革であり、政策が発表されることは政策実現の第一歩であると言えます。政策発表は政策の実現可能性を高めるという意味で政策担当者に対して行うことはもちろんのこと、その政策の必要性が広く社会に認知され、その政策が支援されることを目的として学生を含む一般の方に対しても行われます。

これら2つの行動目標に基づき、私たちの活動は行われています。そして、私どもの活動を通じて生み出された政策あるいは人材が望ましい社会を実現するための一端を担うことが出来るであろうと確信しています。

2010年度活動日程

東日本

5月23日

ゼミ説明会

(慶應義塾大学 三田キャンパス)

6月13日

勉強会

(慶應義塾大学 三田キャンパス)

8月23日

中間カンファレンス

(明治大学 駿河台キャンパス)

10月24日

中間発表会

(明治大学 駿河台キャンパス)

12月11、12日

政策フォーラム

(お茶の水女子大学、慶應義塾大学 日吉キャンパス)

1月9日

政策提言会

(明治大学 和泉キャンパス)

西日本

5月16日、22日

ゼミ説明会

(大阪大学 豊中キャンパス、同志社大学 今出川キャンパス)

6月20日

勉強会

(京都大学 吉田キャンパス)

8月22日

中間カンファレンス

(大阪大学 豊中キャンパス)

10月10日

中間発表会

(同志社大学 新町キャンパス)

ゼミ説明会(東日本)

【日時】

2010年5月23日(日)

【場所】

慶應義塾大学 三田キャンパス

【企画構成】

- ・ ISFJ団体概要
- ・ 2010年度スケジュール
- ・ 参加手続きについて

【企画趣意】

本説明会は、本団体の活動への参加を検討されている研究会に対し、ISFJがどのような団体であるのかを知って頂き、今年度の活動予定についてご説明することを目的とする。スケジュールや参加の手続きについての説明にとどまらず、「学生の政策提言による望ましい社会の実現」という団体の活動理念と、それに基づく活動の実績についてもお話しさせて頂く。

【企画責任者より】

今回の説明会では、今年度の参加を検討されている多くの学生にお集まり頂くことができました。事務的な話のみならず、昨年度の活動を記録した写真などを用いて、活動の具体的なイメージを参加者に持って頂けるような説明会を目指しました。また、私共の活動内容や過去の実績を知って頂くことにより、本団体での活動が単なる「論文コンテスト」ではなく、実務家や他大学の学生とのディスカッションを経ての「政策提言」であるということをご理解いただけたのではないのでしょうか。ISFJが理念として掲げる「学生の政策提言による望ましい社会の実現」は、1週間や1ヶ月でできることではありません。学生や講師の方々と議論を深め合い、積み重ねてきた努力がすばらしい政策提言論文になるよう、運営スタッフとして精一杯サポートして参りたいと考えております。

ゼミ説明会(西日本)

【日時】

2010年5月16日(日)

2010年5月22日(土)

【場所】

大阪大学 豊中キャンパス(16日)

同志社大学 今出川キャンパス(22日)

【企画構成】

- ・ ISFJ団体概要・説明
- ・ 2009年度論文発表・体験談

【企画趣意】

本説明会では、第一にISFJ日本政策学生会議の活動をより多くの各大学の研究会に知ってもらうこと、第二に、今後の日本社会を担っていく学生が政策立案を行うことの必要性・重要性を知ってもらうことを目的として開催しました。

【企画責任者より】

今回のゼミ説明会では、年間活動スケジュールやISFJの参加方法等の事務的な内容に加え、昨年度ISFJに参加された学生による論文発表を行うことで、参加を希望する学生により明確なISFJの活動をイメージして頂けたと考えています。また、団体の理念に共感頂いた上で、今年度より、原則としてすべてのイベントへの参加をお願いすることについても、多くの学生の方にご理解頂くことができ、大変有意義な説明会であったと思います。

勉強会(東日本)

【日時】

2010年6月13日(日)

【場所】

慶應義塾大学 三田キャンパス

【企画構成】

第1部：講演「政策とは何か」

第2部：グループワーク「政策論文の執筆を学ぶ」

【企画趣意】

これからISFJの活動に参加する学生に対し、政策とはいかなるものかということを学んでいただく機会と位置づける。政策提言論文を執筆する上で、まず根幹となる「政策」に焦点を当て、その実態や必要性、提言の有用性について理解を深めていただくとともに、実社会の問題についての解決策を考案する機会を提供することで、問題の捉え方や解決策の導き方を学んでもらうことを目的とする。

【第1部講演者】

みんなの党代表渡辺喜美 衆議院議員政策担当秘書

藤岡 隆雄様

【第2部ゲスト】

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

田畑 壽邦様

国立情報学研究所 情報社会相関研究系 助教

上田 昌史様

日本都市センター 研究室 研究員

鬼木 達矢様

【企画責任者より】

当勉強会をもって、年度を新たに活動が開始されました。これからISFJの活動に参加する学生に対し、政策とはいかなるものかということ学んでいただく機会と位置づけ、政策提言論文を執筆する上で、まず根幹となる「政策」に焦点を当て、その実態や必要性、提言の有用性について理解を深めていただくとともに、実社会の問題についての解決策を考案する機会を提供することで、問題の捉え方や解決策の導き方を学んでもらうことを、当企画の目的としました。

当勉強会は2部構成となっており、第1部では元金融庁職員の藤岡隆雄様にご講演をして頂きました。現在の日本の芳しくない現状及び危機感について熱くご説明下さり、これからの日本を背負っていく学生に対して、これらを真正面から受け止め問題解決に取り組んでいくことの大切さを語って頂きました。

第2部では学生が各部屋に分かれ、あるテーマに関して、グループワークを通じた課題解決・模擬ディスカッションを行いました。財政健全化や都市問題について扱い、有識者もお呼びして様々なアドバイスを頂きました。グループ内やグループ間の議論が白熱したと同時に参加学生からも高評価を頂き、当初のイベント趣旨に合致した大変意義のあるイベントとなりました。

勉強会(西日本)

【日時】

2010年6月20日(日)

【場所】

京都大学 吉田キャンパス

【企画構成】

第1部：講演「自民党政権と民主党政権の政策決定プロセスの比較」

第2部：グループワーク

【企画趣意】

1. 公の場で活動されている方の意見を聴き、現在国や地域に起こっている問題を知ってもらおう。
2. 資料やデータをもとに各自で問題意識を考えてもらい、問題意識から政策提言までの流れを学ぶ。
3. 参加者間の交流。

【第1部講演者】

大阪大学法学研究科教授

植松利夫様

【第2部ゲスト】

< 社会保障分科会 >

大阪大学 法学研究科 教授

植松 利夫様

< 行政分科会 >

尼崎市役所 総務局人事管理室人事担当

治田 純子様

< 国際分科会 >

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

木下 祐輔様

< 都市分科会 >

京都大学 経済学部 教授

文 世一様

< 財政分科会 >

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

清谷 康平様

< 行政分科会 >

同志社大学 経済学部 教授

八木 匡様

< 産業分科会 >

龍谷大学 経済学部 教授

清谷 康平様

< 金融分科会 >

財団法人 関西社会経済研究所 客員研究員

井田 大輔様

【企画責任者より】

今回の勉強会は2部構成で開催しました。第1部では大阪大学法学研究科教授の植松利夫先生に「自民党政権と民主党政権の政策決定プロセスの比較」をテーマにご講演をして頂きました。自民党と民主党の政策決定プロセスの相違について、また、論文を書くにあたり大切にすべきことについてお話して頂きました。植松先生は元財務省職員であり、そのご経験に基づいて現実根ざしたお話をして下さったことから、参加者からは、実務に携わった方から話を伺うことができ貴重な経験となったという意見を頂きました。また、具体的・現実的な話であったため今後の政策立案に向けて参考になったという声も多く聞かれました。

第2部では学生が興味のある分科会に分かれ、ゲストの方のお話を聞き、今注目されているトピックについてグループで議論しました。税制やワーキングプア、東アジア共同体について扱い、発表に対してゲストの方から様々なアドバイスを頂きました。学生同士の質疑応答も活発に交わされ、トピックに対する理解が深まったと同時に、議論の面白さも体験して頂けたと思います。

約半日の勉強会でしたが、盛り上がる分科会や、他の参加者から刺激を受けたと書かれた多くのアンケートより、今年度も勢いあるスタートを切れたと感じています。

中間カンファレンス(東日本)

【日時】

2010年8月23日(日)

【場所】

明治大学 駿河台キャンパス

【企画構成】

第1部：2009年度最優秀論文賞受賞者による発表

第2部：分科会毎に今年度参加者によるグループディスカッション

ゲストによる論文進捗状況へのアドバイス・助言

【企画趣意】

第1部にて2009年度の最優秀論文賞を受賞した班の発表を見て参考にしてもらい最終到着点を把握してもらおう。更にアドバイス・年間スケジュール等も発表に加えて、より一層充実を図る。

第2部では論文テーマに沿った分科会ごとに分け、分科会毎にゲスト講師を招き、講演していただき分科会に見合った諸問題の意識向上を目的とする。用意したテーマを基に班ごとにグループディスカッションを行う。限られた時間で問題意識を見つけ出し、解決へと導く提言をするためかなりの労力を要するが、今後の中間発表会・政策フォーラムで提出する論文の質の向上を目的としている。

【第1部講演者】

昨年度最優秀論文賞受賞者

慶應義塾大学 土居丈朗研究会

【第2部ゲスト】

< 社会保障分科会 >

ニッセイ基礎研究所 社会研究部門 主任研究員

阿部 崇様

< 行政分科会 >

明治大学 法学部 専任講師

黒澤 睦様

< 都市分科会 >

株式会社ケー・シー・エス 環境政策グループ

主任技師

江川 誠一様

< 財政分科会 >

一橋大学 経済研究所 世代間問題研究機構

准教授

小黒 一正様

< 労働分科会 >

明治大学 商学部 教授

千田 亮吉様

< 産業分科会 >

横浜国立大学 経営学部 教授

鳥居 昭夫様

<産業分科会>

中央大学 総合政策学部 教授

横山 彰様

<金融分科会>

経済金融アナリスト

津田 栄様

【企画責任者より】

まず、全体を通して受付に時間をかけてしまいました。事前の参加意思表明をせずに当日参加を懇願する方や論文進捗状況を記載した資料を忘れた方などの対応も同時に対処していたため、予め参加者には情報を正確に伝え、当日は円滑に事が進むようにしていかなければならないと感じました。

第一部では、最優秀論文賞を受賞された慶應大学土居研究会の方々にお越しいただき、論文だけでなくプレゼンの手法・年間スケジュール・改善点等、今年度参加者にアドバイスしていただきました。論文作成にあたり大きな糧となったと思います。

第二部ではアンケートから賛否両論の意見をいただいております。企画趣旨が上手く伝わらなかったのも原因の一つであり、分科会を移動していただいた方々には厳しい意見もいただきました。反対に「検証方法の具体化」「今後の取り組みへのヒント」「問題意識具体化」「思考に新しい視点」等、グループディスカッションを通して得たものもあつたようです。進捗状況の質疑応答の時間では沢山の方が今後の糧となる情報を得ることができ、また他の班の進捗状況から刺激を受けられたという意見もあり、10月24日の中間発表会がより一層よいものになるよう企画者として精進していきたいです。



中間カンファレンス(西日本)

【日時】

2010年8月22日(日)

【場所】

大阪大学 豊中キャンパス

【企画構成】

第1部：昨年度参加者による発表、ISFJ体験談、質疑応答

第2部：参加者による発表(分科会別)

【企画趣意】

研究方向性報告書で参加者に報告してもらった内容に関して、学生同士の議論を元に、特に論文の骨組の部分のレベルの底上げを図る。

第1部は、昨年度参加者によるプレゼン発表、昨年度参加者から体験談を伺う、という形をとることで参加者に自分たちが目指すゴールとそれまでの過程を具体的にイメージして頂くことが目的である。

第2部は参加学生が研究方向性報告書にもとづくプレゼンを行い、それに対しゲストの方からアドバイスを頂く。加えて、他の学生・ゲストの方との積極的な議論を行うことにより、様々な視点を検討しながら論文の骨組部分を固めてもらうことを目指す。

【第2部ゲスト】

< 社会保障分科会 >

大阪大学 経済学研究科 院生

立福 家徳様

< 教育分科会 >

神戸大学 発達科学部 准教授

吉永 潤様

< 行政・財政・金融分科会 >

大阪大学 国際公共政策研究科 院生

宇佐美 宗勝様

< 国際分科会 >

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

木下 祐輔様

< 都市分科会 >

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

清谷 康平様

< 産業・環境分科会 >

財団法人 関西社会経済研究所事務局次長

島 章弘様

【企画責任者より】

今回の中間カンファレンスは、初めてISFJに参加する学生に対し、12月に開催いたします「政策フォーラム」での政策提言論文発表に向けて、今後の研究の進め方の道筋をつかんでもらう機会という位置付けで開催いたしました。

まず第1部では、昨年度ISFJ参加者の方に、昨年度政策フォーラムにて行った発表を再現して頂きました。また、就職活動を控えた3年生が主である今年度参加者に対して、昨年度参加した経験に基づき、今後の就職活動の進め方にもふれつつ、叱咤激励のお言葉を頂きました。続いて第2部では、論文テーマにより割り振られた分科会に分かれ、今年度参加学生が今後研究する論文の構成(現状、問題意識、先行研究、オリジナリティ、分析、政策提言)について、現段階での構想を発表して頂きました。この参加学生の発表に対して、参加学生同士の質疑応答、そしてゲストの方からアドバイスを頂きました。

参加学生からは、第1部・第2部ともに有意義な内容であったという多くの声を頂き、全体としては成功だったと言えます。ただ、今後に向けて、開催時期や、ゲストの方と学生の意見交換の効果的な方法等について、検討していきたいと思えます。

中間発表会(東日本)

【日時】

2010年10月24日(日)

【場所】

明治大学 駿河台キャンパス

【企画構成】

各分科会での中間論文発表、ゲスト講評

【企画趣意】

ISFJは、「学生の政策提言を通じた、学生の望む日本社会の実現」という理念のもと活動を行っており、その最終的な目的は学生により提言された政策が実現されることです。そのためには、提言された政策が現実社会の問題に対する解決策として実用的であること、また、政策が実現可能であることが重要になります。

中間発表会はその政策提言論文の進捗状況の発表を行う場として位置づけられており、論文の分野ごとに設置する分科会に実務家や大学教授の方々をゲストコメンテーターとしてお招きし、ご意見・ご講評をいただくことで論文内容の一層の充実を図ることを目的としております。政策フォーラムでの最終発表を控え、論文執筆のブラッシュアップとしてこの場を設けました。

【ゲストコメンテーター】

< 社会保障分科会 >

一橋大学 経済研究所 世代間問題研究機構
准教授
小黒 一正様
千葉大学 法経学部 准教授
大石 亜希子様

< 医療・介護分科会 >

政策研究大学院大学 教授
島崎 謙治様
財団法人 松下政経塾
津曲 俊明様

< 教育分科会 >

早稲田大学 教育・総合科学学術院 教授
三尾 忠男様
Learning for All代表理事
松田 悠介様

< 行政分科会 >

財団法人 松下政経塾
丸山 穂高様
財団法人 松下政経塾
西野 偉彦様

<国際分科会>

政策研究大学院大学 客員教授
和田 義郎様
財団法人 日本国際問題研究所 研究員
畑佐 伸英様

<交通分科会>

株式会社ケー・シー・エス 代表取締役
天野 洋文様
東京海洋大学 海洋工学部 教授
寺田 一薫様

<都市分科会>

財団法人 日本都市センター研究室
主任研究員
中西 規之様
日本大学 経済学部 教授
浅田 義久様

<財政分科会>

独立行政法人 国際協力機構
JICA研究所 リサーチ・アソシエイト
高畑 純一郎様
明治大学 商学部 教授
千田 亮吉様

<労働分科会>

財団法人 松下政経塾
片山 清宏様
産業カウンセラー CDA
山田 修様

<産業分科会>

嘉悦大学 経営経済学部 教授
黒瀬 直宏様
総務省 情報流通行政局 地上放送課
今川 拓郎様
東京経済大学 専任講師
黒田 敏史様

<農業分科会>

参議院 農林水産政策委員会 調査局
大川 昭隆様
早稲田大学 政治経済学術院 教授
堀口 健治様

<環境分科会>

株式会社三菱総合研究所
環境・エネルギー研究本部 研究官
伊藤 綾子様
東京都市大学 環境情報学部 教授
中原 秀樹様

<金融A分科会>

横浜市立大学 国際総合科学部 教授
藤野 次雄様
株式会社農林中金総合研究所 調査第二部長
矢島 格様

<金融B分科会>

日本政策投資銀行 設備投資研究所
副主任研究員
宮川 大介様
東洋大学 経済学部 教授
益田 安良様

【企画責任者より】

テーマに沿って13の分科会に分かれ、明治大学駿河台キャンパスのリバティタワー・アカデミーコモンの2箇所で開催させていただきました。

多くの研究会が15分間というプレゼン時間を守り、参加者による質疑応答も積極的に行われ、テーマごとに分科会を区分したため、参加者からの質問もより専門性の高いものでした。

ゲストの方々からの御講評は、事前に参加者が執筆した中間論文を査読していただいていたため、要所要所に対して的確な指摘、叱咤激励等多くの分科会では拝見することができました。また、今回はコメンテーターの方に「モデレーター」としてもお願いし、論点整理や議論の活発化を図っていただき、当イベントは中間カンファレンスでの運営側の改善も図ることができ、参加学生にとっても論文執筆において有意義な時間を過ごせたのではないかと思います。

唯一、当中間発表会の開催時期が最終論文提出の二週間前となっており、中間発表会で得たものを短時間で反映するのが難しいとの声を参加学生の皆様からいただきました。本件に関しては来年度の活動で反映できるようにいたします。ご協力ありがとうございました。

中間発表会(西日本)

【日時】

2010年10月10日(日)

【場所】

同志社大学 新町キャンパス

【企画構成】

各分科会での中間論文発表、ゲスト講評

【企画趣意】

中間論文発表会では、事前に提出して頂いた中間論文にもとづき、現状分析から政策提言の方向性までを含めた発表を行って頂く。

この発表に対して、ゲストの方からのアドバイスや参加者同士の議論を通じて、最終論文の執筆に向けた論文の方向性の最終確認を行うとともに、論文内容を更に発展させることを目的とする。

【ゲストコメンテーター】

< 社会保障分科会 >

関西福祉大学 社会福祉学部 教授

藤岡 純一様

甲南大学 経済学部 教授

藤岡 純一様

< 教育分科会 >

内閣府

脇 奈七様

日本学術振興会特別研究員・

京都大学大学院比較教育政策学講座 博士課程

脇 奈七様

京都大学大学院比較教育政策学講座・

教育行政学講座 博士後期課程

江上 直樹様

< 行政・財政・金融分科会 >

同志社大学 法学部 教授

田中 治様

大阪大学 国際公共政策研究科 院生

宇佐美 宗勝様

< 国際分科会 >

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

木下 祐輔様

< 都市分科会 >

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

清谷 康平様

大阪大学大学院 経済学研究科 教授

高山 正樹様

< 労働分科会 >

同志社大学 経済学部 教授

八木 匡様

<産業・環境分科会>

財団法人 関西社会経済研究所 事務局次長

島 章弘様

立命館大学 映像学部 教授

宿南 達志郎様

【企画責任者より】

今回の中間発表会では、中間論文にもとづくプレゼンに対し、学生同士の議論、そしてゲストの方々のアドバイスを通して論文の更なるレベルアップ、そして自分たちに足りない視点や発想を学んでいただきました。特に今回は、最終論文執筆に向けて、より多くの観点から内容を検討できるよう、ゲストコメンテーターの方との懇談の時間や学生同士の議論の仕方などを、それぞれの分科会の事情に応じて設定しました。また、学生がお互いの論文を評価し自由にコメントしあう「評価シート」も導入しました。

結果的には、学生が主体的・積極的に参加して下さったことに加え、ゲストコメンテーターの方にも熱心なアドバイスを頂けたことから、最終論文に向けて、方向性を最終確認するための大変有意義な機会をつくることができたと考えています。

政策フォーラム2010

【日時】

2010年12月11日(土)

2010年12月12日(日)

【場所】

1日目：お茶の水女子大学

2日目：慶應義塾大学 日吉キャンパス

【企画構成】

1日目：開会式、論文発表

2日目：論文発表、基調講演、表彰式、閉会式

【企画趣意】

政策フォーラムは、本年度のISFJの活動を通して執筆された政策提言論文を基に、学生が自ら考案した政策を発信する場を提供すること、学術論文としての評価を受ける場を提供すること、そして学生同士の学び合いの場を提供することを目的とする。

学生から提言された政策を、「実際に社会に普及させることが出来る政策」に少しでも近づけるための足がかりとして、分科会ごとに各専門教授、実際の政策立案に携わる官僚やシンクタンク職員などの実務家の方に対して政策提言を行う場を提供する。これとともに、政策提言と学術論文、どちらの面からも特に優秀と評価された政策提言を行ったグループには、自ら立案した政策の必要性を広く社会に伝播させることを目的とし、フォーラム参加者全てに対して政策伝達を計る場を与えることとする。

【ゲストコメンテーター(1日目)】

< 社会保障A分科会 >

独立行政法人 国際協力機構 JICA 研究所

リサーチアソシエイト

高畑 純一郎様

< 社会保障B分科会 >

株式会社ニッセイ基礎研究所 生活研究部門

主任研究員

松浦 民恵様

< 教育A分科会 >

PHP総研 教育マネジメントセンター長

主席研究員

亀田 徹様

< 労働A分科会 >

労働カウンセラー CDA

山田 修様

C&S コンサルタンツ株式会社

代表取締役社長

竹生 孝夫様



<労働B分科会>

日本キャリア開発協会認定 CDA

横山 孝子様

一橋大学大学院 社会学研究科 教授

林 大樹様

<国際B分科会>

財団法人 日本国際フォーラム 常勤参与

若林 秀樹様

独立行政法人 国際協力機構 JICA 研究所

田中 啓生様

<国際B分科会>

財団法人 日本国際問題研究所 研究員

畑佐 伸英様

<産業A分科会>

株式会社 富士通総研 経済研究所

主任研究員

湯川 抗様

<産業B分科会>

新堂消費経済研究所 エコノミスト

新堂 精士様

国立情報学研究所 情報相関研究系 助教

上田 昌史様



【ゲストコメンテーター(2日目)】

<社会保障C分科会>

金融庁 総務企画局 企画課 課長補佐

横山 玄様

<介護分科会>

厚生労働省 老健局 介護保険計画課 係長

市川 聡様

株式会社ウエルビー 代表取締役

青木 正人様

<医療分科会>

学習院大学 経済学部 教授

遠藤 久夫様

<教育B分科会>

国立教育政策研究所 高等教育研究部

統括研究官

川島 啓二様

早稲田大学 教育・総合科学学術院 教授

吉田 文様

<行政A分科会>

財団法人 松下政経塾 政経研究所 所長

金子 一也様

亜細亜大学 経済学部 教授

植村 利男様

<行政B分科会>

公益財団法人 東京財団

研究員 兼 政策プロデューサー

佐藤 孝弘様

<交通分科会>

PHP総研 政治経済研究センター 特任研究員

松野 由希様

株式会社ケー・シー・エス 社会政策部

東日本ブロック グループリーダー

仲条 仁様

<都市B分科会>

株式会社ニッセイ基礎研究所

社会研究部門 研究員

塩澤 誠一郎様

関東経済産業局 総務企画課 企画課長

星野 勝之様

<財政B分科会>

財務総合政策研究所 研究官

大野 太郎様

財務省 主計局 主計企画官付

財政分析第二係長心得

佐々木 邦仁様

<環境A分科会>

株式会社三菱総合研究所

環境・エネルギー本部 研究官

伊藤 綾子様

株式会社エックス都市研究所

環境コンサルティング部

新事業創出チームマネージャー

山崎 智雄様

<都市A分科会>

公益財団法人 東京財団

研究員 兼 政策プロデューサー

井上 健二様

株式会社ケー・シー・エス 社会政策部

中日本ブロック グループリーダー

矢倉 豊様

<財政A分科会>

独立行政法人 国際協力機構 JICA 研究所

リサーチ・アソシエイト

高畑 純一郎様

株式会社富士通総研 経済研究所

上席主任研究員

米山 秀隆様

<農業分科会>

参議院 農林水産委員会 調査室 主席調査員

稲熊 利和様

国立情報学研究所 情報社会相関研究系 助教

上田 昌史様

<環境B分科会>

株式会社ダイナックス都市環境研究所 研究員

津賀 高幸様

NPO法人 環境自治体会議環境政策研究所

研究員

増原 直樹様



<金融A分科会>

株式会社農林中金総合研究所 調査第二部長
矢島 格様
日本銀行 金融研究所 経済ファイナンス研究課
経済研究グループ 企画役
服部 正純様
駒澤大学 経済学部 准教授
矢野 浩一様

<金融B分科会>

金融庁 金融研究センター 研究官
平野 智裕様
日本政策投資銀行 設備投資研究所
副主任研究員
宮川 大介様
経済ジャーナリスト
松崎 隆司様

【基調講演ゲスト】

株式会社大和総研 専務理事 チーフエコノミスト
原田 泰様

【受賞論文】

<最優秀論文賞>

神戸大学 石黒馨研究会 (国際分科会)
『日本・フィリピンEPAの改善 —1万人のフィリピン人介護福祉士受入れ政策』

<政策提言賞>

同志社大学 風間規男研究会 (医療分科会)
『コンビニ・ハートステーション化計画 —繁華街で営業するコンビニへのAED設置による心肺機能停止傷病対策—』

<優秀論文賞>

慶應義塾大学 土居丈朗研究会 (財政分科会)
『財政再建の成功に向けて—独立した財政機構の導入—』

<分科会優秀賞>

[社会保障] 同志社大学 伊多波良雄研究会 『inosが少子化を救う —結婚でなく出産が家族の出発点—』
[介護] 立教大学 高原明夫研究会 『介護分野における外国人労働者の受け入れ』
[医療] 同志社大学 風間規男研究会 『コンビニ・ハートステーション化計画 —繁華街で営業するコンビニへのAED設置による心肺機能停止傷病対策—』
[教育] 明治大学 加藤久和研究会 『経済格差による教育機会不平等再生産の是正』
[行政] 慶應義塾大学 土居丈朗研究会 『地方自治体の自立を促す地方債改革 —財政の持続可能性に基づく2グループ制の導入—』
[国際] 神戸大学 石黒馨研究会 『日本・フィリピンEPAの改善 —1万人のフィリピン人介護福祉士受入れ政策—』

〔交通〕早稲田大学 須賀晃一研究会『首都圏鉄道網におけるピークロードプライシング導入 —より快適な都市交通システムの形成を目指して—』

〔都市〕横浜市立大学 藤野次雄研究会『横浜市における「地域循環・自立型」経済構造の構築 —KIBSの発展への期待—』

〔財政〕慶應義塾大学 土居丈朗研究会『財政再建の成功に向けて—独立した財政機構の導入—』

〔労働〕同志社大学 山田礼子研究会『大学院修了者の雇用改善に向けて —高学歴者の有効活用を—』

〔産業〕横浜市立大学 藤野次雄研究会『横浜市における産業集積を活かした企業誘致 —イノベーションの促進に向けて—』

〔農業〕日本大学 宮里尚三研究会『日本農業活性化のために —より良い農地資源の有効利用を目指して—』

〔環境〕千葉大学 倉阪秀史研究会『家庭の生ごみ堆肥化による有機物循環型社会の推進』

〔金融〕明治大学 千田亮吉研究会『日本経済の持続的発展のための安定化政策と成長政策』

【企画責任者より】

政策フォーラムは、本年度のISFJの活動を通して執筆された政策提言論文を基に、学生が自ら考案した政策を発信する場を提供すること、学術論文としての評価を受ける場を提供すること、そして学生同士の学び合いの場を提供することを目的としています。

学生から提言された政策を、「実際に社会に普及させることが出来る政策」に少しでも近づけるための足がかりとして、分科会ごとに実際の政策立案に携わる官僚やシンクタンク職員などの実務家の方に対して政策提言を行う場を提供させていただきました。

12月11、12日の2日構成で、11日はお茶の水女子大学で9つの分科会、12日は慶應義塾大学日吉キャンパスで16の分科会設け、全14種の分科会で政策フォーラムを開催しました。

半年以上をかけて論文執筆作業をし、その集大成となる当イベントではどの分科会でもレベルの高い発表を拝見することができました。

参加者全体が集まる唯一の場の閉会式では原田泰様(大和総研専務理事・チーフエコノミスト)による講演があり、有意義な時間を過ごせたのではないかと思います。同時にISFJ特別顧問である戸崎様より、今年度の全体の総括をいただき参加学生の日々の努力が報われ、この経験を活かしさらなるステップへと足を進めることができたことかと思えます。

分科会賞、優秀論文賞、政策提言賞、最優秀論文賞を受賞された14の研究会の皆様には1月に開催される政策提言会に参加していただく予定です。数ある論文の中から選ばれた研究会の方々には、実際に日本の政治に携わっている国会議員、政策秘書の前で、ISFJに参加された全学生を代表し、政策提言していただきます。

来年度は政策フォーラム、政策提言会を一元化し、政策フォーラムに議員の方々にお越しいただき、より多くの学生の政策に対する想いを発信できるようにしたいと考えております。

政策提言会2011



【日時】

2011年1月9日(日)

【場所】

明治大学 和泉キャンパス

【企画構成】

発表、学生議員間交流(昼食)

【企画趣意】

政策提言会は、12月に開催された「政策フォーラム2010」にて政策提言の面から高く評価された学生が、政策に最も近い国会議員の方に直接政策提言を行う、2010年度の集大成といえるイベントである。このイベントでは、学生が提言する政策を国会議員の方に評価して頂くことで、学生の政策を社会に少しでも反映させるとともに、議論を通して新たな気づきを得て、今後の学生の成長へつなげることを目的としている。

【ゲストコメンテーター】

政策秘書

小野 貴樹様

衆議院議員

横糸 勝仁様

参議院議員

石橋 通宏様

衆議院議員

中屋 大介様

参議院議員

小西 洋之様

【参加班】

ISFJ政策フォーラム2010 分科会優秀論文受賞者

[社会保障] 同志社大学 伊多波良雄研究会『inosが少子化を救う—結婚でなく出産が家族の出発点—』

[介護] 立教大学 高原明夫研究会『介護分野における外国人労働者の受け入れ』

[医療] 同志社大学 風間規男研究会『コンビニ・ハートステーション化計画—繁華街で営業するコンビニへのAED設置による心肺機能停止傷病対策—』

[教育] 明治大学 加藤久和研究会『経済格差による教育機会不平等再生産の是正』

[行政] 慶應義塾大学 土居丈朗研究会『地方自治体の自立を促す地方債改革—財政の持続可能性に基づく2グループ制の導入—』

[国際] 神戸大学 石黒馨研究会『日本・フィリピンEPAの改善—1万人のフィリピン人介護福祉士受け入れ政策—』

[交通] 早稲田大学 須賀晃一研究会『首都圏鉄道網におけるピークロードプライシング導入—より快適な都市交通システムの形成を目指して—』

〔都市〕横浜市立大学 藤野次雄研究会『横浜市における「地域循環・自立型」経済構造の構築 —KI BSの発展への期待—』

〔財政〕慶應義塾大学 土居丈朗研究会『財政再建の成功に向けて—独立した財政機構の導入—』

〔労働〕同志社大学 山田礼子研究会『大学院修了者の雇用改善に向けて —高学歴者の有効活用を—』

〔産業〕横浜市立大学 藤野次雄研究会『横浜市における産業集積を活かした企業誘致 —イノベーションの促進に向けて—』

〔農業〕日本大学 宮里尚三研究会『日本農業活性化のために —より良い農地資源の有効利用を目指して—』

〔環境〕千葉大学 倉阪秀史研究会『家庭の生ごみ堆肥化による有機物循環型社会の推進』

〔金融〕明治大学 千田亮吉研究会『日本経済の持続的発展のための安定化政策と成長政策』

【企画責任者より】

政策提言会は、昨年末の政策フォーラムにて政策提言の面から高く評価された学生が、政策に最も近い国会議員・政策秘書の方に直接政策提言を行う、ISFJ2010年度の集大成といえるイベントです。

当会では、14の研究テーマについて学生から発表が行われ、それぞれゲストの国会議員、政策秘書の方々に御講評頂きました。分科会ごとの参加研究会数が3~4つと少数だったこともあり、ゲストの方と身近な形で議論がなされたことに加え、他の学生との質疑応答が活発に行われたことから、参加学生一人ひとりが各々のテーマについてより深く理解する機会になったのではないのでしょうか。休憩の際には学生とゲストの方々との交流の場を設け、発表テーマに限らず、様々な話題について積極的な意見交換がなされました。また、参加学生同士で1年間の研究活動を振り返り、互いを称賛するようすも見られ、参加学生間の交流を深める場としても有意義な時間となりました。

発表後の総評においてはゲストの方々から当会・参加学生に対し高い評価を頂き、盛会の下無事終了致しました。



財務報告

| 支出 | | 収入 | |
|---------------|---------|-------|---------|
| 東日本イベント運営費 | 54361 | 論文参加費 | 500000 |
| 参加ゼミ説明会 | 1200 | 協賛金収入 | 735000 |
| 勉強会 | 17120 | 前期繰越金 | 1064493 |
| 中間カンファレンス | 14000 | 預金利息 | 45 |
| 中間発表会 | 22041 | | |
| 西日本イベント運営費 | 163006 | | |
| 参加ゼミ説明会 | 500 | | |
| 勉強会 | 22941 | | |
| 中間カンファレンス | 16099 | | |
| 中間発表会 | 45674 | | |
| 参加者交通費補助 | 77792 | | |
| 政策フォーラム運営費 | 239581 | | |
| 会場代 | 14800 | | |
| 印刷費 | 9350 | | |
| ゲスト昼食代 | 35431 | | |
| ゲストお礼代 | 42000 | | |
| 特別審査員交通費 | 30000 | | |
| 優秀論文特典 | 90000 | | |
| 臨時スタッフ謝礼 | 18000 | | |
| 政策提言会運営費 | 319894 | | |
| 印刷費 | 250 | | |
| 昼食代 | 79124 | | |
| ゲストお茶代 | 520 | | |
| 参加者交通費 | 120000 | | |
| スタッフ交通費 | 120000 | | |
| 広報費 | 135803 | | |
| 名刺代 | 39303 | | |
| ドメイン・サーバー更新料 | 5250 | | |
| 2010年度パンフレット代 | 91250 | | |
| 渉外費 | 21810 | | |
| ゲスト渉外費 | 3610 | | |
| 企業渉外費 | 18200 | | |
| 運営費 | 576354 | | |
| 運営委員交通費 | 150000 | | |
| 出張費 | 374410 | | |
| 備品代 | 29501 | | |
| 印刷費 | 13828 | | |
| 手数料 | 3295 | | |
| 送料 | 5320 | | |
| 当期支出合計 | 1510809 | | |
| 次期繰越金 | 788729 | | |
| 支出合計 | 2299538 | 収入合計 | 2299538 |

協賛企業



公益財団法人
大阪コミュニティ財団
竹内鐵二
学校・社会教育振興基金

「政策フォーラム2010」後援団体

経済産業省 関東経済産業局
公益社団法人 日本経済研究センター
財団法人 松下政経塾
財団法人 統計研究会
財団法人 日本総合研究所
公益財団法人 東京財団

参加大学・研究会一覧

< 東日本 >

| 大学 | 研究会 |
|--------|-----------|
| 慶應義塾大学 | 井手秀樹研究会 |
| 慶應義塾大学 | 河井啓希研究会 |
| 慶應義塾大学 | 木戸一夫研究会 |
| 慶應義塾大学 | 木村福成研究会 |
| 慶應義塾大学 | 櫻川昌哉研究会 |
| 慶應義塾大学 | 竹中平蔵研究会 |
| 慶應義塾大学 | 竹森俊平研究会 |
| 慶應義塾大学 | 土居丈朗研究会 |
| 慶應義塾大学 | 樋口美雄研究会 |
| 慶應義塾大学 | 廣瀬康生研究会 |
| 慶應義塾大学 | 山田篤裕研究会 |
| 慶應義塾大学 | 吉野直行研究会 |
| 創価大学 | 高橋一郎研究会 |
| 創価大学 | 碓井健寛研究会 |
| 千葉大学 | 大石亜希子研究会 |
| 千葉大学 | 倉阪秀史研究会 |
| 中央大学 | 横山彰研究会 |
| 中央大学 | FLP横山彰研究会 |
| 東北大学 | 西澤昭夫研究会 |
| 東洋大学 | 中澤克佳研究会 |
| 日本大学 | 豊福建太研究会 |
| 日本大学 | 宮里尚三研究会 |
| 一橋大学 | 佐藤主光研究会 |
| 明治大学 | 折谷吉治研究会 |
| 明治大学 | 勝悦子研究会 |
| 明治大学 | 加藤久和研究会 |
| 明治大学 | 武田巧研究会 |
| 明治大学 | 千田亮吉研究会 |
| 明治大学 | 畑農鋭矢研究会 |
| 明治学院大学 | 西村万里子研究会 |
| 横浜市立大学 | 藤野次雄研究会 |
| 立教大学 | 高原明生研究会 |
| 早稲田大学 | 須賀晃一研究会 |
| 早稲田大学 | 藪下史郎研究会 |

< 西日本 >

| 大学 | 研究会 |
|---------|----------|
| 大阪大学 | 野村茂治研究会 |
| 大阪大学 | 山内直人研究会 |
| 大阪市立大学 | 朴一研究会 |
| 関西大学 | 鵜飼康東研究会 |
| 関西大学 | 林宏昭研究会 |
| 関西学院大学 | 井口泰研究会 |
| 関西学院大学 | 上村敏之研究会 |
| 北九州市立大学 | 古賀哲矢研究会 |
| 京都大学 | 岩本武和研究会 |
| 京都産業大学 | 岑智偉研究会 |
| 京都産業大学 | 菅原宏太研究会 |
| 京都産業大学 | 田中寧研究会 |
| 京都産業大学 | 福井唯嗣研究会 |
| 神戸大学 | 石黒馨研究会 |
| 神戸大学 | 石原享一研究会 |
| 神戸大学 | 久保広正研究会 |
| 神戸大学 | 田中康秀研究会 |
| 神戸大学 | 地主敏樹研究会 |
| 神戸大学 | 丸山佐和子研究会 |
| 同志社大学 | 伊多波良雄研究会 |
| 同志社大学 | 風間規男研究会 |
| 同志社大学 | 橘木俊詔研究会 |
| 同志社大学 | 八木匡研究会 |
| 同志社大学 | 山田礼子研究会 |
| 名古屋大学 | 多和田眞研究会 |
| 南山大学 | 石川良文研究会 |
| 南山大学 | 寶多康弘研究会 |
| 立命館大学 | 古川彰研究会 |

26大学62研究会

ISFJ 日本政策学生会議 2010年度 活動報告書

<代表>

堀口 瑞生(明治大学 千田亮吉研究会)

<編集責任者>

草野 貴大(明治大学 千田亮吉研究会)

<執筆者>

興津 隼人(横浜市立大学 藤野次雄研究会)

田頭 範子(大阪大学 山内直人研究会)

森山 佳奈(奈良女子大学)

<発行日>

2011年3月31日

<連絡先>

info@isfj.net

ISFJ 日本政策学生会議

Inter-university Seminar for the Future of Japan